5月号　八二養だより
青森県立八戸第二養護学校
令和４年４月２２日

校　長　　工　藤　誠　志

さぁ、クイズです。答えてください。

『アリババと四十人の盗賊』で、洞窟を開けるときの呪文はなんでしょう？答えは、「ｉﾍﾟｰﾌﾘｳﾑ」です。意外と答えられない方も多いようです。子どもの頃に読んでいたので分かるという方やクイズマニアで知っていたという方には簡単な問題です。職員室で何人かの先生に聞いてみると、「わかりません。」とう返事が多かったのには、驚きました。ちなみに、開いた洞窟を閉めるための呪文は、「ｉﾍﾟｰｸﾛｰｽﾞ」 です。私がすぐに思いつく呪文は、①アブラカダブラ、②テクマクマヤコン、③マハリクマハリタ，ヤンバラヤンヤンヤンのようなものです。

合言葉（あいことば）といえば、「山」と問われたら、「川」と答える合言葉が有名です。職員室でこの話をすると、若い先生たちはちんぷんかんぷんの顔をしていました。「ジェネレーションギャップだぁ！」なんていう先生もいました。校長室に戻ってから私の頭の中に浮かんできたのは、「聞いたことが少なくなっている」、「合言葉は、使わないと分からない」という現実です。最近は、インターネット、パソコン、携帯電話等でパスワードを利用することはあっても、合言葉を必要とする場面が少なくなっていることに気がつきます。

さて、この呪文や合い言葉は、時に自分を奮い立たせる力となることがあります。学校では、子どもたち自身が「わたし、頑張る！！」と元気に言って、学習活動に取り組む姿を目にします。呪文や合言葉には、超自然的な力にはたらきかけてなんとかしようとする願いや子どもたちがこれから新しいことに取り組み学ぼうとする意気込みが込められています。子どもたちにとって、呪文や合い言葉のように意味が分かりにくいものは不要です。ですから「レッツ、ゴー！」や「頑張るぞ、エイエイエ、オー！」は、教えていても言えたり、大きな動作ができたりします。

そして、保護者の皆様や教師が成果を確認したり、賞賛したりする場面には「よくできなね」「すごいね」「すばらしい」の魔法の言葉があります。子どもたちは、この言葉を聞いて、よかったと確認して、また頑張ろうと張り切って次の活動の意欲が生まれてきます。すべて子どもたちのためになる呪文や合言葉、魔法の言葉を使ってもっともっと成長をしてほしいと願っています。